

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査の進め方に関する面談

2. 日 時：令和3年3月16日（火）13：10～14：00

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室

4. 出席者

原子力規制庁

山形対策監、大島安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住補佐

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

伊藤副理事長、奥田安全・核セキュリティ統括部長 他1名

5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、今後の許認可審査案件スケジュールについて説明があった。

原子力規制庁からは以下の点を指摘した。

- ・高速実験炉常陽の審査について、これまでの審査会合で一通りの申請内容の説明を受けてきたが、計算を用いた安全設計の評価を行うにあたり、計算モデルの精緻化に注力する一方で、立証されたアプローチを用いず安全設計を妥当とすることの説明が散見された。
- ・今後、審査上の論点を整理のうえ、集中的に審査を進めたいと考えており、審査を合理的に進めるため、立証されたアプローチを用いた安全設計の論理を構築し、説明できる体制を作ってもらいたい。

これらに対し、機構からは検討する旨回答があった。

6. 配布資料

資料 今後の許認可審査案件スケジュール